

概要版

2018～2027年度

第2期八雲町総合計画



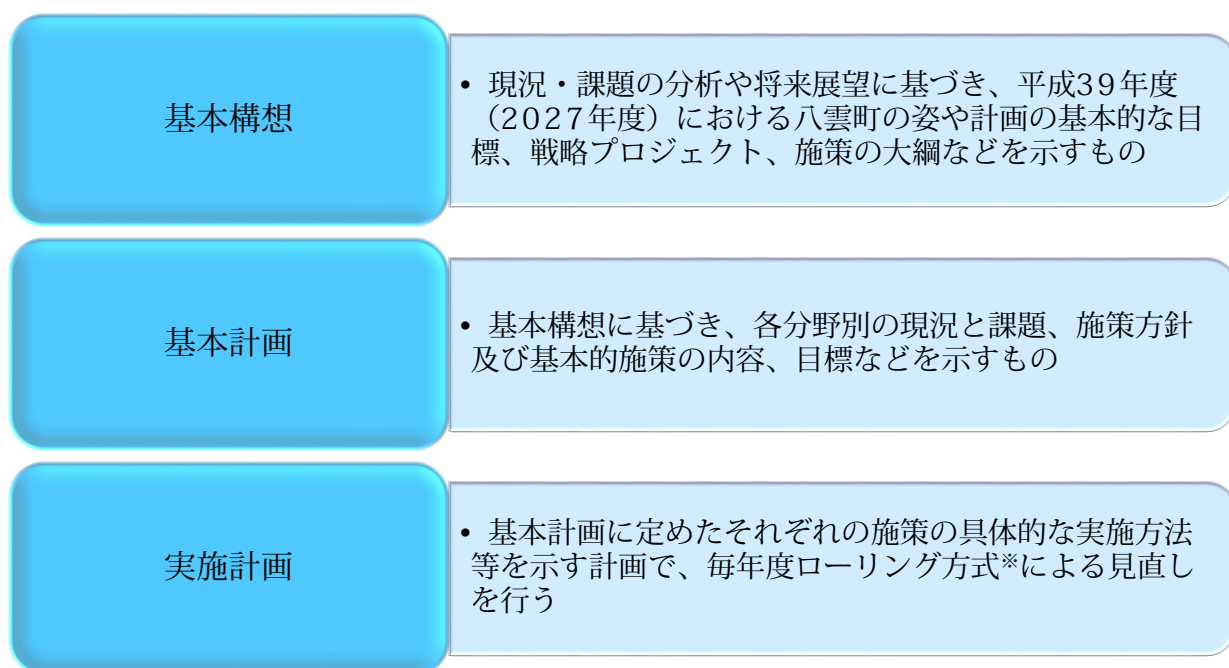
北海道 八雲町

総論

【総合計画とは】

まちづくりの目標とその取組方向を示すものであり、八雲町の最上位に位置する計画です。長期展望に立ったまちづくりの基本的な考え方を明らかにするとともに、町民と議会及び行政が一体となったまちづくりを進めるための指針を示します。

【計画の構成】



【計画の期間】

本計画の期間は、基本構想・基本計画を平成30年度(2018年度)から平成39年度(2027年度)までの10年間、実施計画を3年間とします。

【計画の推進】

本町における最高規範条例である「八雲町自治基本条例」に示されたまちづくりの4つの基本原則「町民主体の原則」「情報共有の原則」「参加の原則」「協働の原則」に基づき、推進していきます。

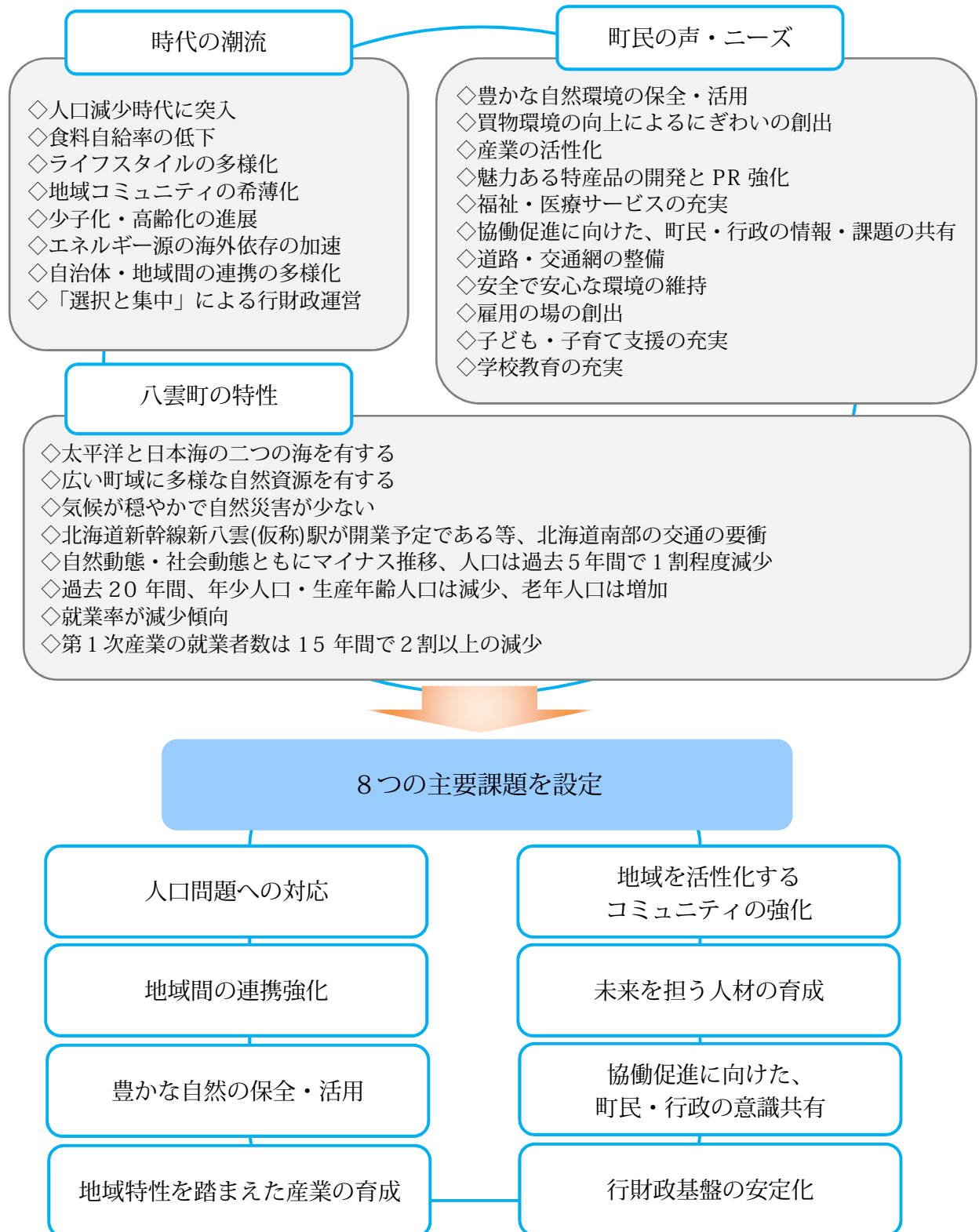
【PDCAサイクル】

本計画はまちづくりの最上位計画として、計画づくり(Plan)、実行(Do)、点検・評価(check)、適切な見直し(Action)といった進行管理を行います。

これからのまちづくりの方向性

主要課題の設定

八雲町を取り巻く時代状況や地域特性から、これからのまちづくりの中で特に配慮すべき主要課題として、次の8つを設定します。





基本理念の設定

本計画は、新八雲町総合計画の基本理念を継承し、平成 18 年 9 月 1 日に制定された「八雲町民憲章」を基本理念に掲げます。

基本理念＝八雲町民憲章

- 1 自然を愛し美しい町をつくろう
特色ある自然を尊び、協働による地域づくりを進める。
- 2 助け合うあたたかい町にしよう
助け合いの精神を広げ、温もりのある地域社会の形成を進める。
- 3 活気あふれる町にしよう
産業の活性化を図り、道南北部の中核性の強化を進める。
- 4 つねに進歩する町民になろう
チャレンジ精神を喚起し、新しいまちづくりとしての取組を進める。



将来像の設定

八雲町の将来像は、基本理念となる「八雲町民憲章」や「自治基本条例」、さらに 20 年・30 年後の長期的な展望を踏まえ、次のように設定します。

将来像

八雲発！自然と人を未来へつなぐ

八雲町は太平洋と日本海、2つの海をもつ自然豊かな町として、歴史を紡ぎながら、将来に向けて農業・漁業のさらなる”発”展と新幹線開通を契機に、再生可能エネルギー*導入による自然との調和を生み出し、八雲町の魅力を積極的に町内外へ”発”信することで、産業・経済・ひとが活”発”で笑顔あふれる町になるよう、これまで積み上げてきた自然と人との多様なつながりを未来へつなげるという想いを込め、これを 10 年後の目指すべき将来像とします。



将来指標の設定

本計画の最終年である平成 39（2027）年度における人口と、町民の幸福度を将来指標として設定します。



第2期八雲町総合計画の基本目標

本計画の基本目標は将来像の実現・将来指標の達成に向けて次の5つを掲げています。

基本目標1 八雲の自然と調和する安心・安全な都市基盤整備

八雲の自然は、この地域に暮らす人々に様々な恵みをもたらし、町の魅力の基盤にもなっていることから、豊かな自然環境と調和した安全・安心で快適なまちづくりが重要になります。

北海道新幹線新八雲（仮称）駅の開業を控え、広域交通網の一端を担う道南北部中心の町としてふさわしい道路網・交通体系、上下水道などの生活を支える都市基盤の整備を進めます。

また、人口減少、少子高齢化時代に向けた生活利便性の維持・向上や行政コストの削減などを目指した、コンパクトシティ[※]・プラス・ネットワークの推進による持続可能なまちづくりを進めます。

該当する施策分野	
土地利用の推進	自然環境の保全
市街地及び集落の環境整備	道路網の整備
交通体系の整備	上・下水道の整備
ごみ処理等の環境整備	緑化・環境美化の推進
防犯・交通安全の推進	消防・救急体制の充実
防災体制の強化	

基本目標2 八雲の豊かな資源を活用した産業振興

産業の振興は、地域経済の活性化の要であり、人口問題への対応の鍵となる雇用の創出につながるとともに、現在、我が国が直面する食料・エネルギー問題への対応といった観点からも、今後さらなる推進が必要であると言えます。

町の基幹産業であり、八雲の最大の魅力の一つである“食”を支える第一次産業や、現在、町が進めている再生可能エネルギー[※]を活用した産業の振興を、今後さらに推進していきます。

また、こうした産業の基盤となる豊かな地域の資源を、商工業や観光業にも活用しながら、地域経済の活性化や雇用の創出につなげていきます。

該当する施策分野	
農林業の振興	水産業の振興
商工業の振興	観光の振興
雇用の創出と雇用環境の向上	再生可能エネルギー [※] を活用した産業の振興

基本目標 3 誰もがいきいき暮らせる健康・医療・福祉の推進

誰もが住み慣れた地域で安心して暮らしていくためには、保健・医療・福祉に関連する公的なサービスの充実だけでなく、町民一人ひとりの健康づくりや、地域における支え合いの仕組みを強化していくことが重要となります。

町内に複数の病院を有する八雲町においては、広域的にも医療の拠点としての役割が期待されていることを踏まえ、各病院の機能強化を推進します。

また、高齢者や障がい者、子育て世帯等に対する公的な支援の充実を図るとともに、地域における支え合いの強化に向けて、自助（個人や家族）・共助（地域）・公助（行政）といったそれぞれの役割を踏まえた、様々な課題解決の取組を進めていきます。

該当する施策分野	
健康づくりの促進	医療体制の充実
地域福祉の促進	高齢者福祉の推進
子ども・子育て支援の強化	障がい者福祉の推進

基本目標 4 ふるさとを築く教育の充実と文化・スポーツの振興

豊かな暮らしの営みを実現するには、経済的・物質的な充足だけでなく、教育、歴史や文化、スポーツなどを通じて、心の豊かさを育んでいくことが必要です。

次代の八雲町を担う子どもたちが、それぞれの資質を伸ばしながら健やかに成長し、様々な世界で夢を持って活躍する力を養うとともに、八雲町をふるさととして大切に想う気持ちを持ち続けられるような学校教育を推進します。

また、町民が生涯に渡って豊かな暮らしを実現できるように、文化・スポーツの振興や、歴史を伝える文化財の保存とその活用に取り組みます。

該当する施策分野	
学校教育の充実	生涯学習の推進
スポーツの推進	文化財の保存・活用

基本目標 5 八雲の自立を実現する協働と行財政運営

厳しい財政状況の中で、八雲町が自立を実現するためには、町民が主体となったまちづくりを進め、その取組を行政が支援することで課題解決を図るといった協働の実現とともに、安定的な財源確保や、「選択と集中」等による行財政基盤の強化が重要になります。

「自治基本条例」に基づく協働のあり方をはじめ、まちづくりに関わる多様な情報発信・共有を積極的に行うとともに、まちづくりの担い手となる地域の人材の育成に努めます。

また、行政組織のスリム化や業務の効率化、広域連携による課題解決も含めた、多様な手法で、適正な行財政運営を目指します。

該当する施策分野	
コミュニティ活動 [*] と交流の促進	住民参画の推進
情報・広報体制の充実	行財政の強化
広域行政の推進	

八雲町の戦略プロジェクト

戦略プロジェクトの概要

戦略プロジェクトは将来像の実現に向けて、本計画期間の中で八雲町が特に力を注ぐ取組であり、次の2つを設定しています。

① 八雲町自立促進プロジェクト

食を支える第一次産業と再生可能エネルギー*を活用した産業の振興を図り、地域の経済活性化により、行財政運営における自立実現を目指すプロジェクトです。

② 道南北部中心プロジェクト

総合病院の機能の維持や北海道新幹線を中心とした広域的な交通体系や周辺整備等により、道南北部自治体の中心としての機能を高めていくことを目指すプロジェクトです。

①八雲町自立促進プロジェクト

【主要メニュー】

- ◇食料生産力の向上
- ◇再生可能エネルギー*を活用した産業の振興
- ◇人材の育成
- ◇町内経済の循環

②道南北部中心プロジェクト

【主要メニュー】

- ◇北海道新幹線を中心とした交通体系・周辺整備
- ◇商業の振興
- ◇医療設備・機能の維持・向上
- ◇学術機関との連携

八雲町自治基本条例に基づき
町民が主体となって、議会・行政との協働により推進

【想定される主な波及効果】

- ◇町内の食料生産量の増加
- ◇町内消費エネルギーの自給率の増加
- ◇まちづくりの担い手の増加

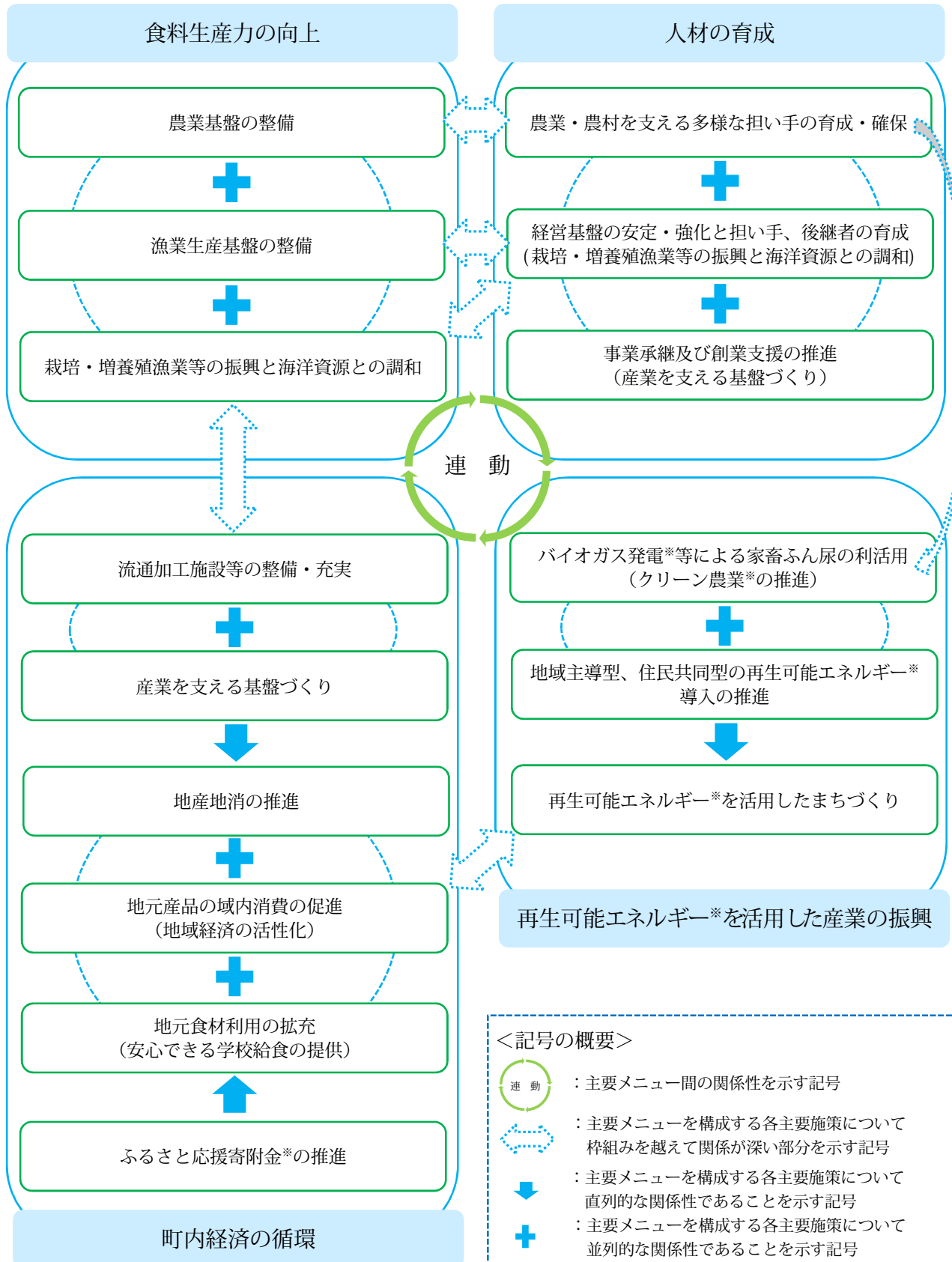
- ◇町内外の交通利便性の向上
- ◇町内交流の促進
- ◇周辺地域等からの交流人口の増加

- ◇雇用創出
- ◇地域経済活性化・行財政の健全化
- ◇町の税収増による福祉・教育等の行政サービスの質の向上 etc…



戦略プロジェクトのイメージ

①八雲町自立促進プロジェクトのイメージ



②道南北部中心プロジェクトのイメージ

北海道新幹線を中心とした交通体系・周辺整備

コンパクトなまちづくりの推進

公共交通の確保

並行在来線*対策の推進

新幹線駅周辺整備計画の推進
(農業基盤の整備)

北海道新幹線の整備促進

新八雲(仮称)駅周辺
整備の推進

都市計画道路の整備

国道及び道道の整備促進

スマートIC*整備の検討

相互に影響

地域経済の活性化

広域行政の推進

情報発信力の充実

産業を支える基盤づくり

流通加工施設等の整備・充実

流通対策、産地・
ブランド対策の推進

観光・物産振興体制の強化

地域資源を活用した
商品開発の促進

商業の振興

相互に影響

学術機関との連携

医療サービスの充実

地域医療の充実

学術機関との連携

病院経営体質の強化

医療設備・機能の維持・向上

<記号の概要>



：主要メニュー間の関係性を示す記号



：主要メニューを構成する各主要施策について
直列的な関係性であることを示す記号



：主要メニューを構成する各主要施策について
並列的な関係性であることを示す記号



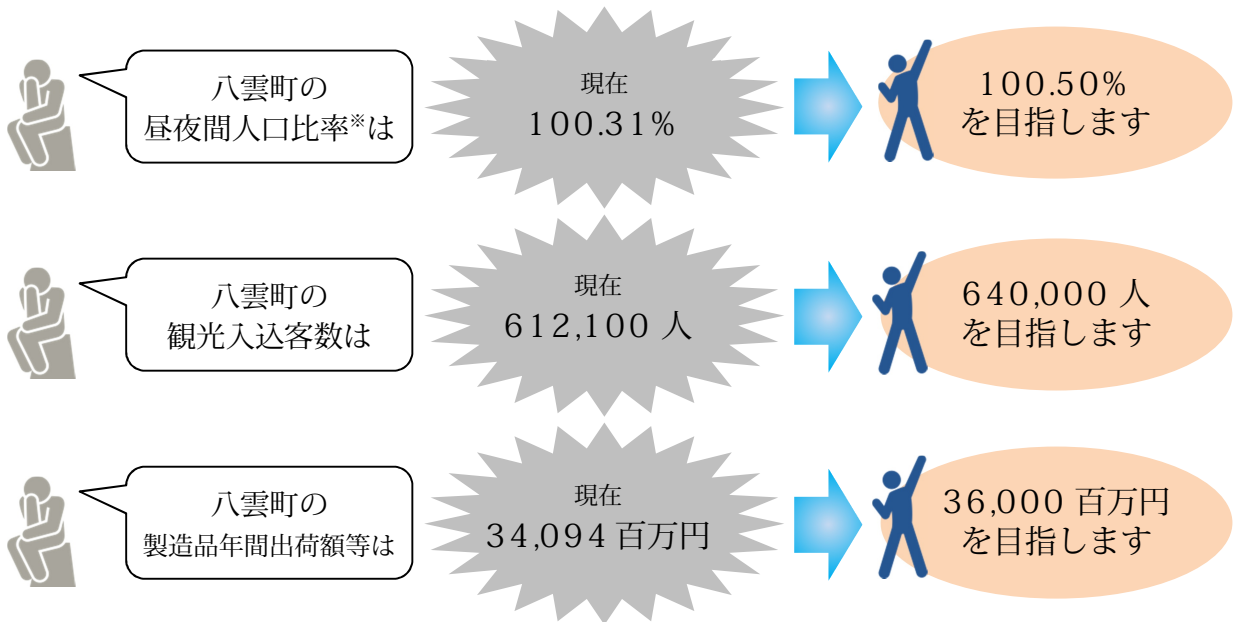
戦略プロジェクトの数値目標

戦略プロジェクトの推進により、次に示すような数値目標の達成を目指していきます。

①八雲町自立促進プロジェクトの数値目標



②道南北部中心プロジェクトの数値目標



用語解説 ※五十音順

- コミュニティ活動・・・同じ地域の住民が、地域をより良くするために活動する、住民同士のつながりに基づく参加型の自治活動
- コンパクトシティ・・・自治体の中心部に商業施設・住宅等様々な都市機能を集約し、市街地の活性化や行政コストの削減を図り、住民の利便性を向上させる都市
- 再生可能エネルギー・・・一度利用しても比較的短期間に再生が可能であり、資源が枯渇しない、永続的に利用できると認められるエネルギー。例として太陽光・風力・地熱等
- スマート I C・・・スマートインターチェンジの略。高速道路の既存施設から一般道に出入りできるよう設置される E T C 専用の簡易型インターチェンジのこと
- 昼夜間人口比率・・・常住人口（夜間人口）100 人あたりの、昼間人口の割合。数値が高いと多くの人が昼間だけ都心に通勤し、夜間は郊外に戻っていくという生活を送っていることを表す比率
- ふるさと応援寄附金・・・別名「ふるさと納税」。地方自治体への寄附を通じて地域創生に参加できる制度
- ローリング方式・・・変化する経済・社会情勢に弾力的に対応し、計画と現実の大きな乖離を防ぐために、施策・事業の見直しや部分的な修正・補完を定期的に行う手法



第2期八雲町総合計画

概要版

八雲発!自然と人を未来へつなぐ

発行 / 平成30年3月

八雲町

企画・編集 / 八雲町役場 企画振興課

〒049-3192

北海道二海郡八雲町住初町138

TEL : 0137-62-2111 (代表)

FAX : 0137-62-2120

H P : <http://www.town.yakumo.lg.jp/>